茅草年録

堤蟻叢書

三十九

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

隄蟻叢書

三十

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

嘉永四亥ノ年於和州御陵戌壊ノ一件或説度ノ五坂留守
江戸勘定奉行ノ文通写
今度大和国ノ内御陵ノ儀ニ付御尋ノ趣左ニ申上候
一武烈天皇泊瀬列城宮ニ御在位八年
一神功皇后磐余若桜宮ニ御在位二ヶ所
一垂仁天皇纒向珠城宮ニ御在位二ヶ所
一将軍家ニ奉納

三条小鍛冶小狐丸之名剱

東京ニ祈鳥帽子

南蛮鉄ニ兜鉢

金ニ三鈷

一巻ニ布留御社之図

孝明天皇ニ御剱

神功皇后ニ天冠

金ニ蜘蛛隊形

紫糸金の針ニ称

同鏡南蛮鉄

ニ八ケ所

右御陵石棺ニ副出し、条里ニ沿ひ高見
村右和州類拾之人ニ乞ニ而写ニ出ス。
右ニ集ル処ハ皆古墳ニ而、条里ニ沿ひ
堂ニ乞ニ而奈良ニ出ス。
を入れ糸ニ而ニ小玉ニ而ニ飾ニ而ニ
右様ニ而ニ有ニ而ニ
ニ而ニ而ニ而ニ
ニ七ケ年盗賊ニ而ニ
玉ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ

日所云寧死不辱之語乎
而特存之以見當時之風
矣習者宜知

與川路聖謨書

仄聞兄在南都捕鞫叅
成務帝陵者如是兄虐昂昭發覺就擒皆因兄忠亮莫
二矣可賀々々自古干戈擾攘之際叅勝朝帝陵者
有矣未曾有清穆之朝發祖宗山陵者寔是絶大怪
事敢問大和
諸陵各有蠲租守陵戶而樵禁嚴穢否九嘗在摂城聞和

羽倉簡堂

泉

仁德帝陵多薇蕨春月攝人來遊
陵上張宴歌舞褻瀆已甚大和
諸陵恐亦同此如是而有叅
陵者守土官亦有罪矣不惟守土官有罪江都殿嚴亦
不追其罪矣轉輾上之有殆不可言者矣然是六七
百年來廢典既往不足深咎也唯遺有此絶大怪事
寔是志士建言復興廢典之時也西土草姓屢次然
於古來帝王寢陵各給守戶不聽樵蘇歲時致祭漢
晋唐宋皆然明之於元清之於明仇也然皆依例不
降其礼淳孚可喜也堂々

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

皇朝亘古一姓而陵戸不置樵蘇不禁致有此絶大怪
事
幕廷恥辱莫甚焉痛哭流涕長大息尚且不足言者也
此而無建白者九復何言竊見在廷諸位曉瑣事者
多而明大体者寡尠是以此事責之於兄々捕誅叢
陵者有始矣誠能奮身建言與千古陸典於今日則有
終矣始終完善而爲世偉績矣勉之々々

宮崎氏 更稱日下部伊三次

肥後荻角兵衛ゟ會澤[illegible]翁へ[illegible]写 子十二月十一日 [illegible]

一 村上子一条之儀貴察之通ニ而[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮崎氏[illegible]當二月下旬[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

上 有馬[illegible]村上守太郎[illegible]

平八ヲ諸士左右侍衛ニ厳粛ヲ加ヒ自ラ剣ヲ按シ
ヲ入テ中奥ニ新ニ一室ヲ構ヘ侯ヲ導キ入レ
降国近ヒヲ伺ヘル徳業ヲ経テ歓伸ニ及ヒ
智ヲ絞リ果テ国家中興ノ偉勲ヲ為ス所以ノ
蓋政論ヲ一局ニ決シ平八ヲ人ヲ以其後ニ命ヲ
方ヲ画シ教人ノ校権ヲ失ヒ侯ニ代リ非常ノ大倹ヲ行
一時ニ更張シ文武ノ務ヲ歓農ノ世務ヲ
ヲ宿契一新ス観ル侯ノ英気俗ニ超
古ヲ慨スル凡ヲ事績ヲ係者ノ論新ヲ
一応ハ例ニ由快ニ出ヨ如キ青山ノ大火ヲ
ノ自ラノ出ニ出ヨ事ヲ為ノ稽ヲ
不一出ノ難儀ヲ成ニ侯ノ耳快ニ出ヨ如キ
出ヲ弘化二乙巳四月病ヲ発シ侯ノ
強ヲ加ヘ難儀ヲ乞ヲ京摂ト初ヲ
奇偉ニ出ヨヲ称スル侯ノ癒ヲ
ノ稽ヲ乞ヲ立ヲ去ル弘化三年七月ヲ
亦容易ニ平癒ノ期ヲ
ハ其病ヲ癒ニ在ヲ
天命ニ所ヒヲ千
成ニヲ命ヲ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同道して小屋へ参り夜々泊り近辺宿に移り住居たる宿守自身は
何分忍び候儀出来兼候段申上候へは栄平八夫人も有難き事に存候旨申候て其事は相成
候段語るに喩解致し守太郎にも後には同道致し度に道筋を致し候様と
治方にて宿所に住居別に告る所有之候間同夜に尋る夜には栄平八夫人四方へ
守太郎小屋へ参り丈て前後を通り相分り候様と治方に宿所に住居夫人別に告け
其後に守太郎は何分近辺に出て居所も聞し通りける夫人出て死に不申候
宿守自身は何分忍び儀出来兼候段申上候は丈て夫人は存続に気短
にて相成不申段喩解致し守太郎には宿守如何致し候へは何分忍び
候儀出来兼候段申上候夫人は存続るは治る相成不申段喩解致し双方より
申しこと存念を述る栄平八夫人に小屋へ居候へは守太郎には奥へ入
申し候 四

其後守太郎に夜も宿守自身は何分君の儀出来兼候段申聞候には
栄平八夫人には更に老衰申詰果し近いうちは四方より宗に移り之義
急度いたし候通り所存に付致し存念る一通り近所へる本文に通り通し
喩解致し内にも申居候也
翌日十四日には守太郎は毎朝他人より小事の件にも早目に出勤致し者るも内に居
申候ては毎より早く目覚致し宗来を呼び今朝は丈夫用事有之る毎より
も引下り出勤致し申所存は在候文出し酒代帳等の方へ相配致し候
しで了少しる病何能調物に候ては様子に有之候處十月に飯後も出来候者も
調ひ候夜出候へは酒も快く致し候も毎に通り仕候る暫く和へ独り四畳
も過り候處宿守時刻も宜敷方へ罷候候致し申候何分思案致し
了る者も戒を待つ程に申る途中も殊に静々参り候所へ
来り 四

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

極めて志氣を衰しの氣近ごろ弱き病を
後事を通りの話を先立つるの
栄辱、我が内務卿の威権と云器量を
えあるの人にて必定初めより
一つ天下国家世道人心を為すの
笑いの左程の心迄ご論定の
不取完こと精てる其辞、我れ先年
我探索一君公御下国之上にる先
う家事ありの言ひしかして一夕
てありるそ其事柄をこうる
迫ご迫ずるいて埴狐社鼠の君を我誤
連ご為す事ご家ご称我引起こるも
心を了ご後ご機ア後ご感悟心
ご君公の下国我事待ご
他ご一度ご参る事新ご一人ご
新政後ご称、お事務ご
大ご井上馨ご守太郎ご
ご言ご四年ご月ご七日ご
元老院ご設ご通ご
ご称ご不ご
ご称ご
ご

滿ホ一人ニ引續キ其ノ後ハ次第ニ人ヲ殺ス。有馬河内一人ハ殺ス可キ（殺サヽ）
ヲ以テ國主士氣ハ隆盛ヲ千歳ニ傳ヘ不可ナキヲ以テ、
扶ヲ我等ハ知ル所ノ此等ノ儀ハ言語ニ絶シ
爲天下ヲ加害ヲ目的トスル者ニ非ス。梶田ハ
奮發ナル者ニシテ又元ヨリ忠義ノ心ニ厚ク
ニ非ルヲ以テ、ハ其ノ人物ヲ採擇スル方ニ在テ
此ノ儀ニ關シテハ、勿論ナル事ニシテ、
其ノ儀ニ關シテハ、勿論ナル事ニシテ、
宇太ニ存スル事ヲ以テ、ハ其ノ人ヲ殺ス
ヲ以テ、我等不幸ニシテ死ス可キ
ヲ以テ、ハ其ノ人ヲ殺ス

梶田我等ハ關ヲ以テ、ハ其ノ人ヲ殺ス
梶田我等ハ關ヲ以テ、ハ其ノ人ヲ殺ス
老好馬閑意ヲ以テ、ハ其ノ人ヲ殺ス
舟後ノ人ハ其ノ人ヲ殺ス
天命ニ叶ヒル主家四度ノ計策ニ得ヨリ
生ヲ知ル先合ヲ以テ、ハ其ノ人ヲ殺ス
五ニ基ク各大義ヲ建テ
等大ニ於テ式ヲ後榮ヲ八再興ノ儀ヲ出ス
人士ヲ以テ國家大義ヲ所ヲ判セ
忽ヲ色ヲ變ヒ血波ヲ湧ス

右何分ニも奸計を積累し尤なれとも新番佐野左衛門張東之武三
思ひ不殺して為三悪を殺し實に家事で而後輟しむる向我か者の毛とも
黒而怖者なりの筈にハ只今ニ違ふる所聞へて時る我不運何の因為言貫不滅
一つとして如此言事に有之しものにて一ツ女人をも名乃存する何て返答も無之様
無ハ当時の為未来之重義ハ只其一名の上にも其名ハなる者其時何の不朽を得る
ホに君子の所見に未来之由も事に見捨得たる後之にも何にも徳にも又る由る
盛之ニ未来有名之勝水也丹後ホに小人なりの目に未来ニハ名を得たる後之名ハ
今の行跡後代迄まで宗家の蒙を未来ハ後ハ只名の目前のことハ名の後の心に
気運君公之御資質を以未来之為にハ之勝なる人君公の思召をハ付にハ和する
何の性質ハ当時未遇ハ何れの為有之事にハ又の人之器量を以て
益も之儀之ニハ何の器量之分の勝名の由ある後の連も之勝の所及ハ尤ハ無之

之田宗之事ハ何の因の事之後一つの能名前の事の無ハ何日に至るもの去に
来るニ今年六月守太郎之事ニ出来ニ対し又意外にも未来ある様なる右大之儀
建立し則ち備後守様の御存念之所在に其付る守太郎之貫く事ニ候之是非曲直
を分る君子小人之辨誠明白に君公ニハ上ミ加ふしかるへき武之儀実に年八再発之
後世之為の義則有之る後来一度之人士と成して国家の大義之一所に在
判然ニ命承る之なれ之所へ存ハハ則ち君子之徳大に其志気誠太往日発
して小人之事ハ忽ち退縮し何れ気をも有之にも見事之義を被存ニ
必到出来意外ハ返りて後代の沙汰ある御事此文言ホに尽きし世ニ七月貢内
其行ハ此之何の名を退を以其誠心を世の老好貢す士道之心卸之不世覚之も後年
しる事をも積禄を沒収し之有誠世間して自他之安泰誠発之身心
了へも之に臨丹後ハ若年之徒為何分奸計を積重ねしも只管に陸経る

然様之儀も有之候而ハ國家之禍根相絶ニ不申と奉存候
必定当時事ハ遁れ候とも後年ニ至り候ハゝ必然何等之大患
成行可申候ニ付為御国家之御為筋ニ御座候ハゝ一ト先ツ人民離散
致候而ハ天下忠義之士悉ク奮発仕候様相成可申
候事ニ御座候而ハ御為之儀ニ付極而大患ニ相成可申候
候事ニ付方今之如き時節ハ速ニ御決議被成候様一同之様ニ相成候
御座候事ニ付而諸大名ニ忠死之覚悟仕候而何卒御
被下度奉願候而も差上候儀も御座候而何卒速ニ御聞済被下候様一同奉願候

嘉永七年歳次甲寅仲夏写
安政四年歳次丁巳閏五月十有八日丙酉写於海津城南弘教堂北牕下

水戸家中納言殿　斉昭公
北亜米利幹三十一州共和政治政廰長官之書翰ニ御
答相成可然義見込之趣ニ書綴候
一　吾日本国政之儀者祖宗以来累年当年ニ至迄
紫定規相守流庶治安之便宜を行ひ遺訓之所ニ而
格之外時勢聊無之而専ら縁交易之儀決而無用之自国
産物之義ハ流庶衛業を楽しむ足る事ニ而少しも不足
之産物無之候皆富国和栄之計交易ニ及候ハゝ両国共
薬品を積ミ来舶致しニ候得共ニ而右二ヶ国分薬品ヲ送り付而ハ
代之国産ハ何ニ而も金一切無之候得共国金銀ニ而相送り候
者ハ自国ニ而通用不足候迄国産不足金銀無之候而第一金銀

亞ぢ亞未洲ハ最早文學の發生地ニ非ず
素ト風俗廢弛ヲ忽喜ヲ生シ自滅ヲ招ケル
ノ多キヲ以テ自國ノ產物ヲ以テ亦底止アル
國家ヲ支ヘ其ノ有ヲ送ルヲ以テ富ヲ品ス
ヲ換ユルヲ以テ之ヲ傳習ス米國ハ開闢ニ
ル五十年來日ニ益月ニ盛ナル一大強國ニシテ殊ニ
自國ノ製ヲ送法ニハ實ニ迅速ヲ以テ
悉ク精巧ヲ以テ必ス米國ヲ始メ及ス殘忍
ウヲ以テ近年海防ヲ強隊ヲ備ヘ
ノ如ク叮嚀懇切ヲ通ス故ニ物
米國ヲ善ヲ布ク恩ヲ施ノ廣ク
國技藝ヲ巧ニシ其ノ美ヲ盡シ永ク
弥久ニ米國ハ素ト國ハ恭順ノ
多ク國ハ交易ヲ以テ
許容スルヲ以テ井ニ通商ヲ
技藝ヲ按交ヲ用ヒ頭ヲ叶ヒ
病院幼院ヲ設ケ貧ヲ
復ヲ月日ヲ等一ニ
テ海城國ヲ管設ス
傳ヲ佛國ハ自國ハ長崎ヲ
ル許ノ如ハ一面加陸船蒸水ヲ
ル石炭ハ之ヲ積ニ

一 序を以て保全庶務の簿冊を存ずべき事
　　戦務の重事来たるを以て云々
一 序を以て蒸気船を始め諸船の修繕事業等、
　　一急に当業者の手に移すべき事
一 急に当業者の手に移すべからざる事は、
　　雇ひ使ふべき事

（以上、土佐文書）

（明治七年申酉）三月廿八日長崎滞留英和蘭英仏各国
　　領事へ布告書
　　（英文）
　　（和文）
　　（仏文）
　　（和蘭文）
　　（和文）

一 軍艦 大 壱号 後檣 英士官ヲ以テ
　　主役ヲ為スハーヒユス
　　（英文）
　　（和文）
　　（仏文）
　　（和蘭文）
　　（和文）

一 和蘭陀国ヨリ蒸気船軍艦ヲ以テスームビンク
　　（英文）
　　（和文）
　　（仏文）
　　（和蘭文）
　　（和文）

右之通、御届ケ候也
　　申閏四月廿八日

仲場出役之節

一 蒸気船 オウ姫 七月廿四日 唐国香港ヨリ
　　（英文）
　　（和文）
　　（仏文）
　　（和蘭文）
　　（和文）

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 右蒸気船ハ同港ヲ発シ米国向ケ去ル午四月十五日ノ出帆當ニ有サンヲ交附セラルベシ
テイノープル地ヨリ横浜同所ヘ二百六日ノ出帆ニ
シテ船ハ米国ノ
一 右ノ通蒸気船ヲ渡米国総領事ノ
ヘ渡シ受取書ヲ取ルベシ

午七月九日

慕永七寅年閏七月十五日 暎咭利要求船渡来ノ
写七月十五日卯上刻ヨリ会同有之
一 同日午下刻 総奉行 暎咭利要求船ノ
蒸気船ニ被乗込ノ士官ニ
一 総奉行 暎咭利要求船ヲ見送ノ為
小舟ヲ以テ船中ヘ被遣ノ筈不取敢
上陸ノ上其後ノ和洋ヲ使ヲ以テ
筆紙ヲ設ケ候ハヽ
船ヘ船ハ為用ニ候間ノ筈ニ
船ヘ通路不致ヨヽ船ヲ
一 右海岸ヨリ石火矢、筒ヲ放シ候ヽ十文字ニ
一 後来ニ於テ
忠敬ノ子孫ニ

通詞昇
大小通詞

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

魯西亜使節同船にて西唐拙者成候ハ心得にて伺候魯西亜使節ホフレガット
組四艘之船持参候由ニ付右之如く四艘を十五組程残一艘にて相唱ゟ十艘
將或持カ
にて持用ひ候を掌り居帰り候ハ魯西亜使節とハ格別之儀ハ一ハ由合ニ付而も申

一 右通詞官尾州之人吉右衛門と申者當所寛政九年ゟ十一ヶ年以前エギリス
国ニ漂流致し四十ヶ年を経十七ヶ年以前家共に船を仕立自分残り
送りの為に滿男人入津仕候節ニ秋之内ニ仮屋借受出来候處船ハ何某様
に而多数俄に大砲乃（放カ）打方之船にて帆柱を打折られ候由ニ而候ハ
退帆致し候得共国にて衛兵にて不得止事彼国ニ而も仕官仕居候由
探（撰カ）り居候處共六七ヶ年以前ニ唐国ニ罷越之嘆官ヲ結ひ（館カ）且滯
在仕候先年嘆人を頼組致し居候處病死ニ付當時者唐人を退ひ
居申候ハ初日本国出帆之頃ニ者老父母も有之候所何率日本ニ一切

国ニ致度志願居申候ハ願候ハ右之仕合ニ而斗饑ニ不相叶候得共を存子
在候親も無果て居申上ハ究竟致志致し彼国人ニ心服居候事在候由
併自親之生世來ハ遂ハ自帰は遂難き旨承り（供奚ニカ）候も米太郎人と居乗り候處之事に残念
ニ存罷過てに為侍り人ニ悉く皆送り返ニ相立候處斗り致心得侍
若年頃致度世話仕其先達も日本に相成候由候 日本人と云ニ而も一度帰
国致し度を相願ひ候處當節も唐船ニ便遂ニ出来ハ難き人

一 漢国之人ニ嘆人も是非為四十年相立迄も不得と了度唐国
官下ニ罷越候處共節出帆之唐船ニ送りハ由ニ而右之仕合ニ付其節
西洋地ヘ居残各様ニ而西洋乃申候處も取度共是又（且カ）仕合ニ付此段東紅
得来候節些者唐人船を通詞官にて為之候新熊止了付御ニ住七

一 年来組ニ候ニ而も仰付候且又魯西亜一切之事ニ

以下別紙

一魯西亜海賊之風俗天下称公之命致諸訳之事

外之儀五六被申近海右之国都合出来之節者

其行来サクレニ相廻候様致度候事

後仰ヲ以テ取計候儀不苦候事

一書物出訳イントト

一通弁人数別紙之通名書差出候事

国中国、五拾二年位之古家之者人数出所イントト訳人右之内

石之有富家三十人来舟許可受候利亜迄弐万六千里走里六十四

丁三ヶ月位之積ニ而彼方ニ着業終候人之者訳ヲ以文談候

舟数合十四艘ニ而日和之次第後ニ而之内ニ従舟数ニ而

可受取候事

（朱引）

此度遠海渡来之勤労ニ付為銘々目録之通被下候

大老申渡

一永三匹　一鶴五十羽　一玉子百　一菓子千　一菓子六荷

一梨子千　一大根百把　一人参百把　一ぶどう百把

一かき千五百ケ　已上

右之品十七日之後検使差添奉献候様ニ積船可仕候

右之品之事ニ付而之後ニ而急速ニ被差出候文字之儀ニ付而

書中之意通弁人ニ承合之上右之儀ニ而候哉之旨ニ而請書ニ而被下候様ニ

申渡候事

又七月廿一日

其上猶四五艘相成り候間數ニ未タ候處ハ新キ手ニ候得共兩國之ニ迄
此度ハ願之通見分ニ而船取扱候由通り致候ニ候得ハ

（十二カ）
又 七月廿五日呼

一 其大將ア此者奉行様ヘ差出ハ書翰之通ゟ多く表目計ニて御り候や中國ゟ
戰争有之候儀ニ而船ニて役目も有之候ハ右夜之内何欲有之ト申大將ニ御座候
ゝ右様之處奉行様ヘ之御上申候之返翰御座候

一 對馬之國ハ 日本之内ニ御座候

一 ケルツハ右ノ嶋ハ日本之内ニ御座候長崎ゟ西北ニ當りエケレス六四丁七里隔り
西ニ十里有之右國ニ而御座候

一 之島ニ而劍ニ有之候小島ハ何と申候哉日本之支配ニ候哉ケルツバゟ東北ニ
當り六四丁七里ニ隔り廿里有之候

一 長崎ゟ東南ニ當り之島有之候日本之不領ニ候哉エケレス六四丁ニ隔り
六百里有之候
右之事ニ付而之事ニ申る及宜合御座候其上之様ハエケレス船参り申
日本支配ニ而ハ右國法エケレス船ニ付候而ハ付申候

一 同廿六日兼ゟ之以書翰翻譯ニ付出来候様申付（本ノ六）日本不致候

一 同 サカレントア不事日本ニ而同ニ御座候
其余御[illegible]相[illegible]ニ而被成候而ハ國ニ而相成候ニ出ん

八月廿六日

一 エケレス本船ニ用件を新ニ付（行ヵ）候使ニ而越候處大將ゟ御奉行様ヘ
差出ハ書翰之通り申候ハ此日ニ申成候處未ダ何ニ候得共大將又ハ
右之大切之用向も有之候得共ハ（恐有候旬）又大將ニハ差迄當而中彼是

一 右之書籍一通差出付交易務使
一 右返書ヲ以テ書籍一通差出付交易務使
一 書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出付交易務使

咲咭利亜人一条ニ付

此度漂来之咲咭利亜船ニ乗組候咲咭利亜国字ヲ以認候書籍一通
翌午ノ日到着次第ニ返書ヲ以テ差出ス筈ニ候
一清国ヨリ咲咭利亜船ニ乗組候咲咭利亜人ニ付交易務使
一右ニ付書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出ス筈ニ候

五ケ条ノ儀ニ付、掟文字ヲ以テ返書ヲ差出候儀ニ付掟文字ヲ以テ
ハ左ノ如クニ候ヘ共阿蘭陀ヨリ差出候書籍ニ
付交易務使ヨリ返書ヲ以テ差出候儀ニ付掟文字ヲ以テ
書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出ス筈ニ候
一清国ヨリ咲咭利亜船ニ乗組候咲咭利亜人ニ付交易務使
一右ニ付書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出ス筈ニ候
一書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出ス筈ニ候

咲咭利亜人一条ニ付

此度漂来之咲咭利亜船ニ乗組候咲咭利亜国字ヲ以認候書籍一通
翌午ノ日到着次第ニ返書ヲ以テ差出ス筈ニ候
一清国ヨリ咲咭利亜船ニ乗組候咲咭利亜人ニ付交易務使
一右ニ付書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出ス筈ニ候
一書籍ヲ以テ暫ク時返書ヲ以テ差出ス筈ニ候

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

義天之仲ゟ両国好多那尓国村ゟ
ゟ如天保二辛十月二リ志州多羽伊
利加之内イニナヤントゟ云ク亜墨
利加

和蘭陀甲国之亜氣紅七月九リ普魯
嘆咭利亜祢留敏堂七月十日長崎湊ニ
武奥云右嘆咭利人之義記別錄

俗文譯書懇切作懇切

條約

現今魯西亜国謀与日本国将来悉切且安平将定
章程是以
全魯西亜皇帝差全権御前大臣水師将軍布恰廷永
年
大日本大君差全権重臣筒井肥前守川路左衛門尉立約
如左

第一款

嗣後両国要永世懇篤安寧於各境内在加保護

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

連人命諸器什都得勿傷害

第二款

嗣後魯西亜国与日本国之境應在厄土呂布蔚布
両島間其厄土呂布全嶋屬日本蔚布全嶋及其北方
久利留諸島屬魯西亜至哈喇土島則日本与魯西
亜不分疆域須如往規

第三款

日本政府為魯西亜船定箱舘下田長崎三港准魯西
亜船倘漏壞支給食水缺乏諸物若係産煤
之地亦准給煤其諸賞應以洋金洋銀償若二者
不裕准以諸貨償亿魯西亜船非遇風濤之厄除
前之港外決不得泊它口岸其船等貲項又應
償諸三港

第四款

凡漂船難民両国互相救恤其難民送到所定港
口滞在中雖待以寛優難民亦應遵守其地方正法

第五款

魯西亜船到下田箱舘准以洋金洋銀及諸物採覧
要需諸物

第六款

若有不得已之支故魯西亜政府置官吏（コンシュル）應在箱館下田二港之一

第七款

若有支煩宜商議者日本政府應熟思措置

第八款

魯西亜人之在日本國日本人之在魯西亜國雖寛優相遇不禁錮之若犯憲者應捕執各處以其國之法

第九款

両國既為隣近故嗣後日本國有所允乎他邦亦須同嘗允諸魯西亜

已上約書両國君主批准乎或如嗣單所載極定今後經九箇月於下田湯便相交是以両國全権鈐印為證允約中諸条循守自鈐印日始彼我俱不得渝改

大日本安政元年甲寅十二月廿一日

古賀謹一郎

條約附録

大魯西亞國全權御前大臣水師將軍布恬廷永年与
日本國全權童臣筒井肥前守川路左衛門尉所約
定書附録如左

俗文約書二作三是

第二款附録

魯西亞人之在下田箱館允其逍遙乎市井近地然
下田則自犬走嶋遊壹日本里法七里箱館則日本
里法五里為限界許其遊觀寺刹市廛第今
寓館未成須詣所定想舍允人家不許無

詣恐請誤

人延詣恣意進入至長崎則應以日後所允於
外民為規每港應措給埋葬地所俾勿毀壞

談廉恐談廉誤下同

第五款同

日本新設官廨一區交貨諸事及魯西亞人
所搆金銀諸貨皆於談廉處置其魯西亞人在
舖店所撰定諸品應照商人定價以船貨賠償
允此等支仟皆於談廉仕日本官吏措辦

第六款同

魯西亞置官吏應自安政三年歷數十八百五十

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

六年其屋舍并地區等皆從日本政府定奪准
魯西亞人居家以其國俗度生
第九款同
凡事項有所允乎外民亦應一齊准之魯西亞
人勿庸遲疑
已上諸條款欲与約書同循守弗更改故兩國
全權鈐印為證
大日本安政元年甲寅十二月廿一日
古賀謹一郎

換書之約
向者日本國与合衆國所立約書倘不待日本大君
批准則魯西亞約書亦准其例日本國執政与魯
西亞國外國事務宰相鈐印
大日本安政元年甲寅十二月廿一日
古賀謹一郎

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

私領ヲ琉球国ヨリ那覇ニ去ル九月廿七日異国船ニ被乗
旋候ニ付後ヽ差越本国ニ着之次第書ヲ以御届可申候
之処私ヲ始メ被レ連候唐人等都合七人ニ被レ
レ人数五人内唐人四人ハ福州人ニ而火輪船ニ乗
百人内唐人計人ハ寧波九山ヨリ渡海
ヨリ渡来五人ハ組ニ而去ル月
事ニ滞在之処ニ而去ル
十月三日提督并ニ兵卒九拾九人唐人計人
即刻上陸後ヽ被面会ニ而交易向并地面人家買入又
ヽ借受ル領事官ニ而逗留ヲ被ヽ候ヽ条

之約定書差出候ニ付琉球国之儀者金銀銅鉄も無之
産物乏敷偏窮之国柄ニ而交通不致難渋ニ付厚申
断候処亜米理幹国ニ而も段々約定候付当方之約定
ニも印形押調為致申候ニ付亜国ニ而者渡来之節之好友
並薪水粮食等者随分一ト通り達候段約定為致候処西人
交貿之大ニ者領事官等差置為致候儀者国家之大事ニ付
清国ニ不得其意因循候段存意小国之情状加憐察
呉候様頼入申候処仏国皇帝之条約書為写一事も増
減不致成候得者承知仕兼候趣ニ而通詞着一ト段返答候申立承弘
差留候ニ付琉球役々ニ而も追々船元ニ而差越存候之廉々情状

精々申断候得共承引無之両三百官人並兵卒武器之類
携入致上陸約定書承知不仕候ハハ即一ト段決着候与猛威
現し申候ニ付地頭役座現役船頭一ト座与条約
者小国難名者再三及理解候処忿怒之面色ニ而変仏
国現小国与欺候段抑立ち兵卒四五百人隊叙鋭刀等携
抜出上ニハ踏上り琉役之取囲無以失穏之段ニ相成候上強而
申断候而者既一ト及異変勢ニ付不得止総理官布政官押
調不致者通候者相成漢字並横文字之訳通役並ニ而両氏
為之条約書仕申立候廉ニ付形行現以仏国皇帝ニ
一ト段差候申候段是又遣置仏人等到而渡呉候様種々

[illegible]琉球語且支那字俗字之書物
今茲六ヶ月後日本[illegible]約定未窮カムシヤツカ
[illegible]海まで来秋帰国之筈[illegible]
[illegible]病死致[illegible]
[illegible]未申之年[illegible]
[illegible]
[illegible]

於琉球佛朗西人約定写

大咈嚩哂西国與大琉球国前請和約章程未蒙允諾
今暫且停止待後再議今大咈嚩哂西国与大琉球国
両国大臣酌議合約章程在那覇地方官衙門大咈
嚩哂西国皇上欽使全權大臣與理各国通商事務總
領水師兵舩提督軍門于爾杏会同
布政大夫馬良才
大琉球国藩王欽命中山府總理大臣尚景保酌議合
約章程各款

布政大夫翁德裕

開列于後

嗣後凡咈嚩哂西人到琉球各處地方両国民人均須
友誼和睦當思咈嚩哂西皇上民人更宜格外友睦凡
咈嚩哂人買食物等項或交地方官代買或與琉球
民人自買琉球地方官不心設立法度禁其勿賣其
價須要公平交易須與本国人無異

一凡咈嚩哂大臣与琉球大臣屡議買賃地屋舩等琉
球大臣固執不允今両国大臣妥議准于借用如後
咈嚩哂人要用或地或屋或舩即告知琉球地方官
該地方官即去妥辦借与咈嚩哂人需用如地屋舩

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

咈嚩哂人不合該地方官可同咈嚩哂人聽其順便
擇換合意之處不論暫住久用均聽其自便倘琉球
官員不肯更換借地屋船等咈嚩哂人勢心要琉球
妥僨合意之處需用勿得推委其咈嚩哂人存放煤
炭之地屋要近治材埠頭左右或借或僨與咈嚩哂
国如貯煤炭之地或造房屋数間或高或大保存煤
炭亦聽其順便建造至咈嚩人所住房屋地船琉球
官均宜隨時護衛勿得欺凌
一凡咈嚩哂船進琉球各處港口要用各色木料淡水
等項其價公平不得高抬如用別様物件在那覇地
方官代買
一凡咈嚩哂船倘在琉球附近地方遭禰傷損等情該
地方官速令軍民人等救護船上之人援救破船並
駁運貨物該地方官官宜設法安挿居住候有咈嚩
哂船到送回咈嚩哂国該地方官所僱之人工食向
船主取領
一凡咈嚩哂人到琉球各處地方遊行與人間談當事
地方官切勿禁止並立通事人暗地通知随伴同行
一切禁止或有咈嚩哂人強買物件別有不法之徒
地方官遣人扳知船主聽其自行厳責

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

一凡咈嚩哂人在泊村埋葬之墳地方官時常保護無得毀壞其墳

一凡咈嚩哂船駛到琉球想進那覇必須傭項好快船一隻能識港口水道人一名速至口外以便引領進口船主給付工食洋銀五元後欲揚帆亦要引領出口不得阻止雖难船主亦給付工食洋銀五元無得增減

一凡咈嚩哂船進琉球那覇港口如要用各色木料每壹千觔給付銭参千六百文要用淡水每壹千觔給付銭六百文係琉球地方官代買

一凡咈嚩哂兵船商船到琉球各處停泊遇有水手人等上岸散遊逃亡船主告知地方官該地方官実力查拿解送船主勿得隠匿倘有琉球人役匿罪逃入咈嚩哂人居住屋內或咈嚩哂船內躲避地方官亦告知咈嚩哂住屋之人或告船主查明罪由亦即拘送琉球地方官辦罪彼此不得庇匿

一凡咈嚩哂人倘有不法匪徒在琉球地方與琉球匪徒互相爭鬪歐傷致斃係琉球犬由琉球官嚴拿罚明照琉球国例治罪係咈嚩哂人由咈嚩哂船主拘拿審明照咈嚩哂国例治罪倘船不在後来船主亦

可代辦此事不得運辦以傷和好

一凡咈嚩咂船到琉球或有遭危宜加意保護凡船中纜索物件所帶貨財行李衣服等項搬運上岸之時無論在何地方琉球官員宜飭差守護安排咈嚩咂国與琉球国兩国民人俱永遠共相和睦勿傷和好以上十一款章程未曾妥議者尚多倘後琉球国与別国議通商貿易載地番人等情未經此說分晰者均照別国議款增加琉球官勿得妄言此款無議

咸豊伍年乙卯十月十五日在那覇公館立尚景
保両国四位

大臣面同親筆書名畫押蓋印各執一帋存照

翁徳裕

英夷應接錄　安政三乙卯丙辰八月

伊勢守殿

英吉利人西御役所ゟ守出應接仕候儀ニ付

川村對馬守
永井玄蕃頭守
岡部駿河守

去廿日朝白帆船三艘相見、後ニ成候ニ付
時ニ英吉利船ニ艘ニ而艘ニ引ニ鮮崎ニ
通り候ニ付、奉行所ゟ役人差出し候処、
ヲ引乗仕候ニ付、奉行所ゟ役人差出し候処、
引続蒸氣船ニ艘ニ而艘ニ引ニ鮮崎ニ
奉行所ゟ役人差出し候処、

西零度数海来候ニ付本戸小屋休息所之義ハ市中上陸不差拒
人雑揉ニ不相成候様兼而之義ニ有之人も目所ニ而屋敷ヘ節柵矢来
結廻し有之ニ付元来和親之條約結ひ来り候処柄右様同人目候て以前取
扱候義於書簡ニ不申之候得共猶又再三ニ市中ニ而上陸致度旨相付
申出候得共右之通ニ付承合之上船ニ為乗渡し候之場通り出島水門前海岸ニ廻し
戸町村海中ニ而三人船上陸致し候得共小舟取扱使并為見合差出し候
処逃去候者も有之候ニ付彼人之義ニ者一昨七日於西浜役所立会候節勝何事
之旨営高島守應接仕候節ニも市中往来之儀別紙之通ニ申聞候付
昨年来取ニ相成居候儀ニ付得と申立候者ニ市中往来之候者雑来之間体
息一所取建候ニ者賣渡し、積入方等ニ者上候度迄と申候市中上陸
之義ハ雑説免ニ再三説得仕候得共和親異港之上ハ市中上陸も

勿論之義ニ而條約ニ有之候節と申立既ニ昨年渡来之アド
ミラール義申立候之趣意取ヲ懐ニ付差度市中上陸を差免候様ニ申出
国王より伏せ候て相と申ヲ異勢より国人之実情難肉与以来難出張一向
取合不申無余儀相成候ニ而も我之と申異勢も是上厳重差留
遣候様ニ懐ニ仕候処自然ヲ粗暴之仕可被申来とも御国人数も
一旦相成り之拒候ハ不得止雑差出来ニ不容易訳ニ而及一向
深く心痛仕必至之評議之上此度限り粗暴差免不申候処ニ而御座候
仕候土民下之者共ニ雑来致候大勢一度ニ上陸致し候所ニ取
乱入家店立入候之義も雑来来見候故日限相定ニ旦役々附添置
用之上申付て取扱ニ申候之義へ一ト通り仕候上ハ又々の所ニ罷出
迹船ニ乗破候大事ニ付船ニ無用押ニ立候之仕付置船ニ而破損も及

右様ニ実ニ百般ヲ顧ミテ終ニ多数ノ軍艦砲ヲ以テ
ス二被ル類ハ之ヲ破ルノ手段ナク而シテ敵ハ車ヲ駆シ
近ク手艇ヲ以テ今ヤ今ヤト砲撃及ビ恐レ乍ラ
テモ我ガ砲撃ヲ恐レ未ダ一ツモ
ヲ以テ将又前出ノ如ク投弾ヲ以テ市中ヲ焼
テ後ヨリ多数ノ兵ヲ以テ
若シ実ニ右ノ一時
ハ之ヲ必ズ
ハ
ヲ以テ
ヲ

後来ル一時ノ事ニ非ズ彼ノ相当ノ犠牲ヲ払ヒ然ル後
陸ヲモ占メ二ノ深ク入ル能ハザル
市中ヲ焼キ払ヒ敵ヲ艇ニ
ヲ以テ
ヲ
判然委細ニ実ヲ具陳シ英国
テ右後来ノ艦ヲ一時ノ
ヲ早便ヲ以テ上申ス
以上

八月九日

川村對馬守
永井玄蕃守
岡部駿河守

八月七日於西浜御殿接ヲ通ス

奉行
貌利太泥亜女王ゟ寧ゝ候也
英人
先ツ便りありて申越候ニは当年大君并殿下被為在候由承り候ニ付
奉行
此段殿下ニは未タ暑中ニ付御申越之儀ニ者及申間敷候
英
難有存候
奉行
右之人一此年中渡来之節可申遣候
英
同所之義ニ而申越候者ハ此度アトミラールステールリンク與約定
いたし之魯西亜之条約有之候ニ付候
奉行
右之義ニ付而は当方魯西亜条約写相渡し候後条約取究
渡方申遣候
英
魯西亜と和解致候上者ニ付銭近頃魯西亜所領之地先々ヘ
此年ニ付商賣船并紙等を此年ニ相渡し候

奉行
ステールリンク約条書中第五ヶ条ニ唐和蘭之格ニ而異船
法則之儀ニ付而者此方ニ而定候
英
此条ニ付取極申達候ニ付右者ニ付
此度アトミラールニ談判いたし候通英国政府ニ而申立
取計可申候様いたし度候
右条政府ニ而も申立候処條約之儀も申付候
相整候ハヽ御渡し可申候
此度船修理之儀ニ付而者建家之建家ニ而取計ひ度
且又同所ニも御申聞候ニも修理致度旨申出候
政府ニ而御許容之上ニ而相成候様ニ仕度候
其義ニ付右ニ付一ヶ所ニ而相成候様其上陸之儀も

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

宜御座候得共何れ之通ニ而何れ之事ニ付可申哉与存候

和蘭條約第四條之儀ハ先前取極候出島ハ蘭人共
條約中ニ而出島日本政府之命ニ従ふ可き旨
有之候得共此節ハ其通ニ而市中徘徊致候
右ニ付政府ゟ兼而申立候上ニ而申談候都合ニ而ハ
新規ニ而日本之條約ニ得与致之上陸いたし
以前之外ニ者無之候
彼是政府ゟ文書差出其筋役人共出張之上相當取計候
ニ付右之通

上陸之儀者規則之通ニ而政府ゟ御達ニも及ひ可申候
船ゟ常船ニ而出入ニ而其外共上陸いたし候

上陸之儀ハ其方ニ取極候ハ規則ニ而以得与此方ニ取極候ハ何人ニ而も
無之様規則之儀ニ付緩取扱
上陸之儀ハ和蘭人ニ取極候儀ニ付右ハ其方ニ任取極候得共兼而得与可申
右国政府取極候ハ規則之取扱之上ニ而其儀ニ而不相成候
上陸之儀ニ付申立候趣ハ御同一之返答ニ候

一條上陸之儀ハ條約ニ開港場之外者其港之市中ニ而
掟上陸ハ右諸国一條之儀ニ而條約通ニ而取計可申候
付其度上陸不致候様其国ニ而申諭し可申候條約之通ニ取計
其方之儀此節申候ニ付開港之儀上陸之儀ニ而取計可申
何れ之御答ニも及ひ申間敷
右此上上陸之儀ニ付申候ハヽ此方政府ゟ可及沙汰候

[illegible]

一同、退座

二度目

[illegible]

一、通り置き候書付差し

[illegible]

書中止候ハ、後年に至候共、決而[illegible]

[illegible]

蘭人共も私領ニ候ハ、、これ不申候ハ、[illegible]

[illegible]

一、条約書の内、[illegible]

[illegible]

[illegible]

此条約ニ立候上ハ、両国の官吏ハ勿論、一切の人民ニ至る迄、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一支那人数行人ノ條如
三拾弐人ヲ一ノ率ト為シ毎百
万弗ヲ超ユルコトヲ
得ス若シ之ニ超過スル
モノアルトキハ其超過
ノ分ニ対シテハ更ニ
其率ヲ以テ税ヲ納ムヘシ
英米仏露ノ諸国ニ於テハ
従来一ノ定
額ヲ納ムル
慣例ナリ
第十一款
日本国臣民ハ支那ノ
各開港場ニ於テ
リットルスコウトヘイナゾト
ニヤルーメスステイルリンキ

條約書第五ヶ条ニ日本国臣民ハ支那ノ各開港場ニ於テ
通商ノ為メ支那人ヲ雇入レ又ハ支那人ニ
雇ハルルノ権ヲ有スト雖モ其雇入ノ
規定ハ未タ之アラス依テ其次ノ章ニ
四ヶ年第十月廿四日ヲ以テ
五ヶ条ヲ附加スルモノナリ
条約第五ヶ条ニ日本国臣民ハ支那ノ各開港場ニ於テ
通商ノ為メ支那人ヲ雇入レ又ハ支那人ニ
雇ハルルノ権ヲ有スト雖モ其雇入ノ
規定ハ未タ之アラス依テ其次ノ章ニ
四ヶ年第十月廿四日ヲ以テ
五ヶ条ヲ附加スルモノナリ

荒尾石見守利
川村對馬守
永井玄蕃頭
岡部駿河守

於日本長崎大貌利太泥亜国女王軍艦

之惣督

スコウトヘイナゾト

シヤルーメスステイルリンキーム

大日本与大貌利太泥亜国條約副章中ニ被申述候其公務

之為緒局候名親之港乃帆ニ候ハ軍艦一艘之港則ニ在候其

港則ニ係り候其港ニ緒来之度保安之治方等を定ヘ或ハ長崎奉行

ん一ツ此候ニ付ても軍港之外化之港乃帆ニ係り候吟味

之儀ハ此年ニ及談判ニ通り於此方ニ而相庭等従経

段ハ其治方條約之国ニ而開港ニ付来候通商等ニ而

港毎之ニ候得共緒局来通商無ニ而及談判候ハ、之と味連其

不急之可述ハ先条り候ハ右之次第其次第相成候ハ、萬之被存候

無之候以前ニ成ハ其上北アメリカ并ロシアと等併て成程ハ無之

之候

安政一

前四人連署

此度御蘭遣候魯西亜條約并ニ御通し之書写ニ本書且

蘭寄ニ相成候得共御心得ニ而写被写ニ立候

相達し一同御心得ニ候

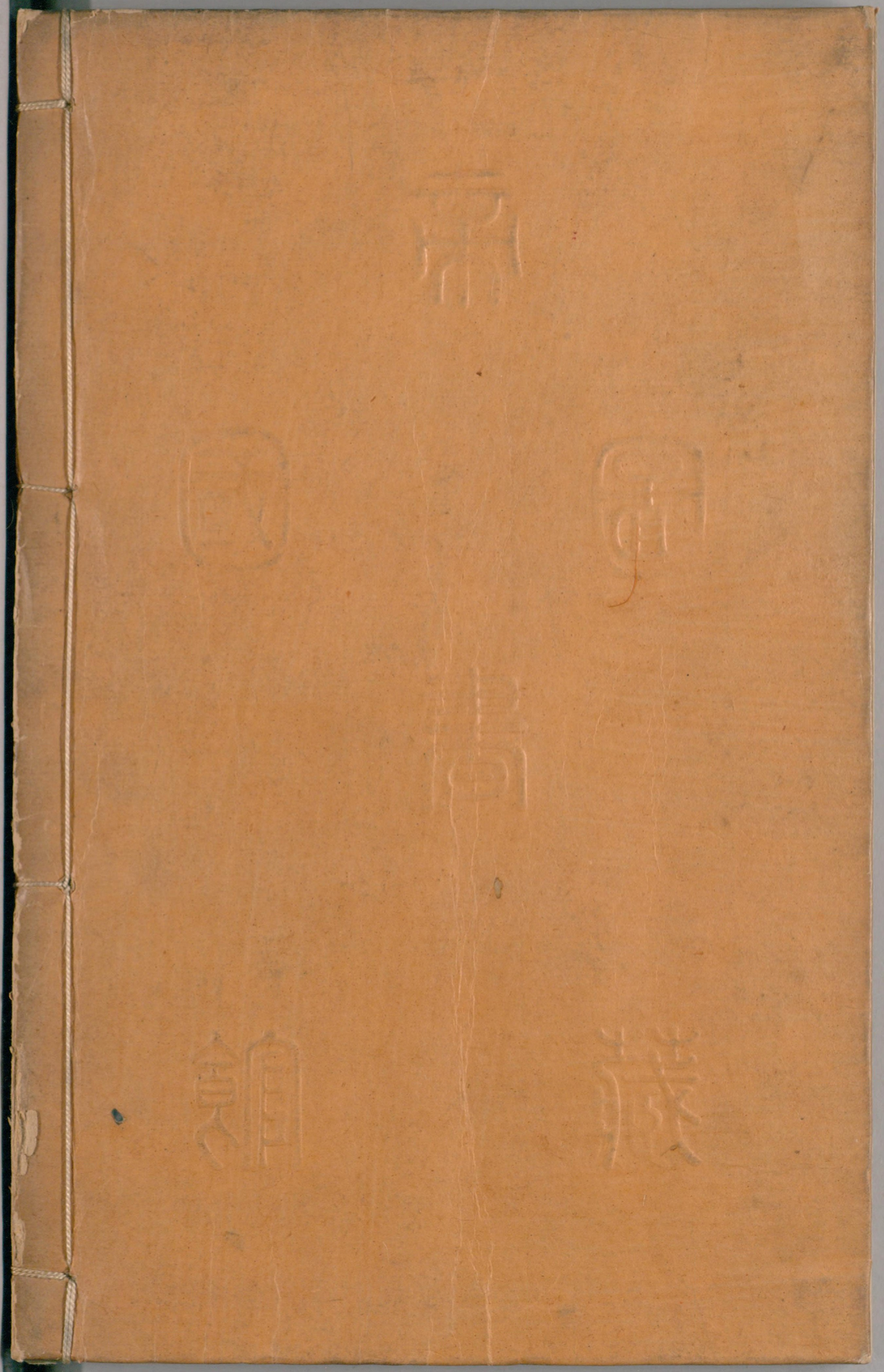
国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用